

# 黒小だより



令和7年 6月30日

第3号

【今年度の重点目標】 ～豊かに表現し、学びを深める子の育成～

○学ぶ楽しさと成長を実感できる学校 ○元気な挨拶と思いやりにあふれる学校 ○保護者・地域の信頼で結ばれる学校

## 思いを遣(や)る

校長 半田 健一

5月31日(土)運動会を開催しました。当日早朝に校地内へ鹿2頭が侵入し、居座られた場合には開始時刻の変更も必要でしたが、職員数名で追い出し、無事終了できました。ご来場いただいたみなさんには、最後まで温かいご声援を送っていただき本当にありがとうございました。自家用車の乗り入れ禁止にもご理解とご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

運動会に向けては、5月の重点「みんなで力を合わせる」を意識させてきましたが、それに加え「**勝っておごらず、負けてくさらず**」という「**カッコいい態度**」について、全校児童に話し、ポスターを作成するなどして考えさせてきました。

当日は、懸命に走り、リズムに乗って身体を動かし、一丸となって団体戦に挑む児童の姿に感動し、競技後の行動にも感動しました。例えば、4年生の綱引き種目は練習時から勝ったり負けたりと力が拮抗。互いに作戦を工夫し合い、競技開始前には円陣を組むなどして団結しました。本番でも1対1で決定戦に進み、僅差で紅組が勝ちました。負けた白組には、負け惜しみを言ったり、誰かを責めたりする声はなく、涙を流す子の姿とそれを励ます友達の姿がありました。「大丈夫だよ」「みんながんばってたよ」と肩をたたきながら…。「**カッコいい負け**」だったなと思います。負けて泣けることも、友達へのリスペクトや思いやりの気持ちを表現できたことも本当に素晴らしいことです。



6月は、「**思いやりを広げよう**」を重点に、児童向け「**いじめ防止基本方針**」とつなぎ合わせながら働きかけました。いじめのない学校をつくっていくには、誰もが持っている思いやりの心を育て、広げ、いじめに向かわない集団にしていく必要があります。児童会でも、「**黒小 思いやりアクション7 (セブン)**」を作成し、主体的に取り組んでくれたことが本当に嬉しいです。

「思いやり」の語源は「思いを遣(や)る」です。「遣る」は「向ける」「届ける」という意味を持ちますから、「(相手に) 思いを向ける」「届ける」ということになります。「相手への贈り物」と言ってもよいでしょう。その思いは行動や言葉に表れます。ある朝、駐輪場に自転車を駐めた中学年の児童が、風で倒れていた誰かの自転車を立ててくれる姿を職員室の窓から見ました。自転車の持ち主はそのことに気づかないのでしょうか…。心が温かくなりました。少し肌寒い朝には、校門前に立っていた私と挨拶を交わした高学年の児童が、「校長先生寒くないですか」と声をかけてくれました。素敵な贈り物でした。「相手に思いを向けられる子は、決して相手に苦しい思いを強いたりしない」そう思っています。

児童会だより

令和7年6月13日 運営委員会

黒小思いやりアクション7

運営委員会では、6月のミッションに關わって、思いやりのある行動について考えました。内容は、「黒小思いやりアクション7」です。思いやりは相手の気持ちを考えるという、意味があります。私たちは学校全体のことを考えた行動について話し合いました。

1 大きな声であいさつをしよう  
2 気づいたらゴミを拾おう  
3 じゃぐちをもとにもどそう  
4 トイレでしんをすてたり、流したりしよう  
5 授業中はしずかにろうかがあるころ  
6 ろうかとかいだんは右側を歩こう  
7 「だいじょうぶ?」と声をかけよう

二人一組が思いやりのあるアクションを起こし、よりよい学校にしましょう

現在午前4時50分。6年生の修学旅行2日目の朝、まだ児童の声は聞こえてきません。昨日の出発式で、「楽しい旅になるよう、周りの人に思いを向けてほしい」と話しました。およそ12時間後、きっと楽しく旅の終わりが迎えらることでしょう。…こんな時間に仕事をしているのは年にこの日だけ

